

第5巻第1号 編集後記

雑誌名	青森県立保健大学雑誌
巻	5
号	1
ページ	177
URL	http://id.nii.ac.jp/1591/00001558/

編集後記

青森県立保健大学 雑誌編集委員長
吉岡 利忠

“紀要”から“雑誌”へ

本第5巻第1号は記念すべき雑誌となった。青森県立保健大学“紀要”から青森県立保健大学“雑誌”に名称が変更されたからである。この号には、平成15年9月27日（土）に本学で開催された第1回青森県立保健大学学術研究集会の抄録が含まれている。大学は、研究機関であり教育機関である。大学の教員が主体となり、これまでの研究成果あるいは現在進行している成果の一部を学内で発表する機会が開学以来5年目で初めて持たれたのである。その抄録は、いわゆる研究業績として公表されたのである。今後、第2回、第3回、、と学術研究集会は続くであろう。そこで発表された研究成果は全て本雑誌に収録されるはずである。学会が開催され、大学の機関誌にその内容が掲載され、このことは、青森県立保健大学学会の立ち上げに限りなく近づくものであろう。しかし、まだ不完全である。本学の教職員はもとより学外の研究機関、他大学あるいは保健医療福祉分野で活躍する人達によって本集会が持たれ、学会の機関誌となることが期待される。幸いにも、そのことが可能になりつつある。さらに、大学院修士課程が開始され多くの大学院生も我が大学で活動している。大学院生は、自分らの研究成果を発表することに努めて積極的である。学術集会の持つ意味合いは極めて重いものとなるだろう。

さて、本号には原著論文、総説、記録などとともに本大学教員が関わった平成15年度に開催された学会、シンポジウムのタイトルが含まれ、短期海外出張における国際学会の報告書も載っている。雑誌としての体裁が整ってきている。この雑誌が県内外の400近くの関係部課署に配布されている。学術雑誌は、毎年、規則正しく発行され、配布されてこそ研究者が安心して利用でき、その原著論文は引用され、専門雑誌としての質が向上するものである。不規則で、間隔をおいて発行されるものではない。

インターネットなどを介して学術論文の内容は瞬時に取り出すことができるし、文献検索などには多大な威力を発揮する。最近、雑誌を手にとることで、本に触れる感触を味わい、印刷の臭いをかぎ、表紙のレイアウトを楽しみ、むしろ自分の専門分野以外の研究成果に目を通すことが、なにかしらその研究者をして研究者ならしめるものではないだろうか、と考えている。